

# 建築知識 9

1959年4月1日 第3種郵便物認可  
2001年9月1日発行(毎月1回1日発行)  
第43巻第10号 通巻542号  
MONTHLY ARCHITECTURE MAGAZINE  
KENCHIKU CHISHIKI / SEPTEMBER 2001  
Vol.43 No.542 / ISSN 0388-1741

## 特集 [ムク板×フローリング]

性能時代、押さえておきたい床板のこと。

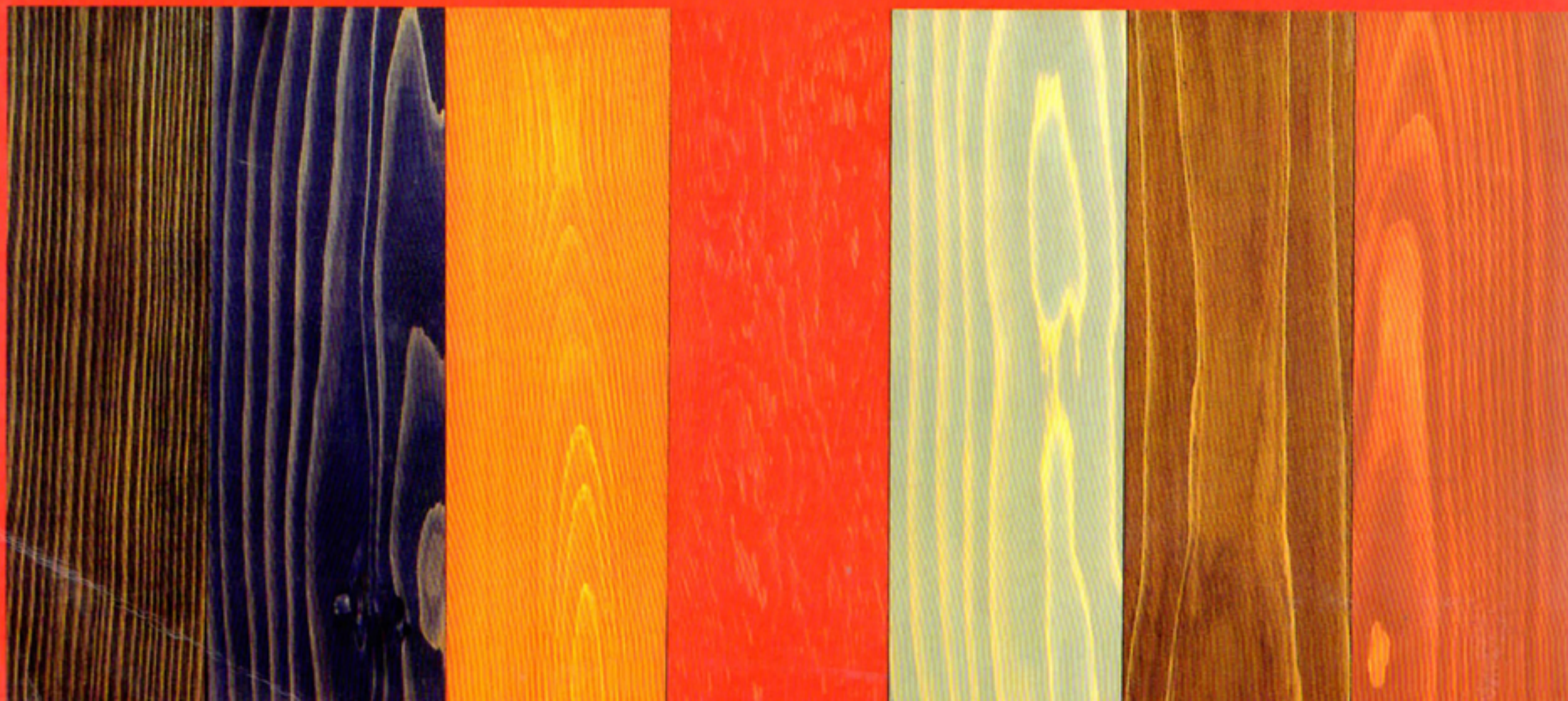
まるごと **床** 道場 unlimited

床板のノウハウ詰まっています。

特別企画 [e設計] 攻略シリーズ

今すぐできる! インターネット [設計⇄施工] コラボレーション 協働術

建知謹製 今すぐ使える! 床材サンプル見本箱



## 竹フローリング・ケンパス

# 工務店との ネットワークで 2種類の 床材をローコストで

H邸

鈴木信弘  
(鈴木アトリエ)

この住宅は光庭を室内の延長として考え、広がりと一体感を獲得した吹抜け空間を特徴にもつ(写真1)。木造による5.4×6.7×3.7mのボックスを無柱で成立させるための架構に予算を取られ、全体の施工面積も大きいため、必然的に仕上げ材はローコストを強いられることとなった。

ローコストには、見た目も実際も安価な材料を割り切って使う方法と、特別な手段やルートを使って、本来そこそこの値段のする材料を格安で手に入れる方法とがある。前者は仕上がりで安価な材料を使ったことが一目瞭然であるため、説得力があり楽なのだが、クライアントに理解がないと後々問題を起こすことが多い。後者の方法は独自のノウハウと人のネット

ワーク、そしてタイミングが必要であり、それゆえ毎回可能かどうかは分からないが、思いがけない材料に出会うこともある。

ここでは後者の方法で選んだ、室内に使用した竹フローリングと、光庭のデッキに使用したケンパスの2種類を紹介する。

## 竹フローリング採用の検討

世間話で、工務店がストックを抱えている竹フローリングのことを聞いたのが使用することになったきっかけである。ある鋼板会社が輸入したものがずっと売れずに倉庫に眠っているものを買ってしまえば、まだこの工務店に2000m<sup>2</sup>近く眠り続けているのと、その仕様は、天然孟宗竹の3層集成材、長さ900×幅90×厚さ15

mmの規格で四方実加工、表面はUV塗装の艶消し仕上げであり質感はよい(写真2・127頁参照)。また竹の節模様もあり独特の風合いに懐かしさを感じる。集成材といってもムク材であるから、木口もそのままで見せることもできる(写真3)。

表面は硬く、含水率も9〜10%と極めて低いので床暖房に使用しても狂いは少ない。この事例を施工した工務店の社長宅でも使用しており、既に6年が経過しているが狂いも反りもなく、暖炉の前の床でさえわずかな隙間であることから採用を決断した。

## ケンパス採用までのプロセス

光庭と屋上のデッキ材に求められる耐久性を考えると、思い付くのはヒノキ、ヒバ、マホガニー、ジャラなどであるが、いずれも安いものではない。特に色調の薄い、ヒノキやヒバは時間とともに黒ずんでいくため、数年おきに塗装をすることになり管理にエネルギーが必要だ。

となると、思いつくのは枕木である。クリを使用した枕木は既に国内にはほとんどなく、中国からの輸入が多いがやはり高い。また園芸用の枕木にはカラマツ、スギなどもあるが価格はピンキリであり、クレオソート浸けになっていくものも多く、住宅にはまったく使う気になれない。



写真4 屋上のケンパス。ところどころクラックが入っている

写真1 竹フローリングを施工したリビングとケンパスの光庭。写真奥の屋上も同じくケンパスを施工

そんなことを考えているうちに出会ったのが、東南アジア産のケンパスである。ケンパスはニューギニアからインドネシアあたりで生息するマメ科の樹木で、本来、梱包用のパレットや枕木として使用するものである。素材の切り落とし寸法で枕木と同じ、長さ2100×幅200×厚さ140mmのものを、m

単位で手に入れたが、30mm厚のデッキとして使うと2千900円/m<sup>2</sup>である。

マホガニー、ローズウッドよりも表面の目はかなり荒く加工前の見た目はあまり好まれるものではないが、製材で2100×90×30mmとし、表面にリブ加工を施し、濃色調のキシラデコールを塗布す

ると、ジャラなどのデッキ材と見分けのつかないものとなる。ただし表面に深さ3mm程度の細かいクランクが多数あるので、それが許せるかどうかが使用のポイントとなる(写真4・127頁参照)。

### 工法上の工夫

竹フローリングは一般的な工法でよいが、含水率が低く、木工用接着剤での接着は不十分となるため、1液性ウレタン系接着剤と釘打ち併用を勧める。

また、現場では竹も含めてムク材の場合、梱包の状態では必ず湿気を含んでいるので必ず張る前に壁に立て掛けて並べ、色合いのむらを確認する。さらにそのまま一晩でも置いて乾燥させるとよい。これはムク材全般に共通するちょっとした工夫である。

一方、ケンバスはデッキに使用するため、張る前にキシラデコールなどを塗布するが、下地の根太材にも共材を使用し、下小屋で裏側まできちんと塗装しておくことが重要である。これは耐久性や反りの防止にも効果がある。

また、かなりの堅木なので先ドリル穴を広めにあけてからビスを打たないとビス頭がねじ切れてしまい、後悔することになるので注意が必要である。

### 竹フローリングはよく滑る？

今回使用した竹フローリングの

表面は艶消し塗装であるが、非常によく滑る。滑り係数がまったく違うほかの床と連続して使うときは注意がいるだろう。クライアントはこの家に住み始めてからスリッパをやめ、素足の生活になった。入居当初は滑りを気にしていたが、すぐに慣れてしまったようだ。

ケンバスは相  
当な堅木であ  
り、表面のクラ  
ックが3mmくら  
いの深さなの  
で、30mm以上の  
厚みで使用す  
る。色調を濃く  
することと表面  
をリブ加工する  
ことで、クラッ  
クも目立たない  
し、素足での使  
用に対してはほ  
こりが付きにく  
いというメリッ  
トにもなる。

### 情報交換の重要性

この事例で、コストを抑える努力を工務店自らが進んでやってくれたことを何よりも感謝しなければならぬと思う。設計者は十分に意図を伝達し、相談ののちもらうことで、工務店や材木屋のもっている本来の調達能力を活かすことが必要ではないだろうか。

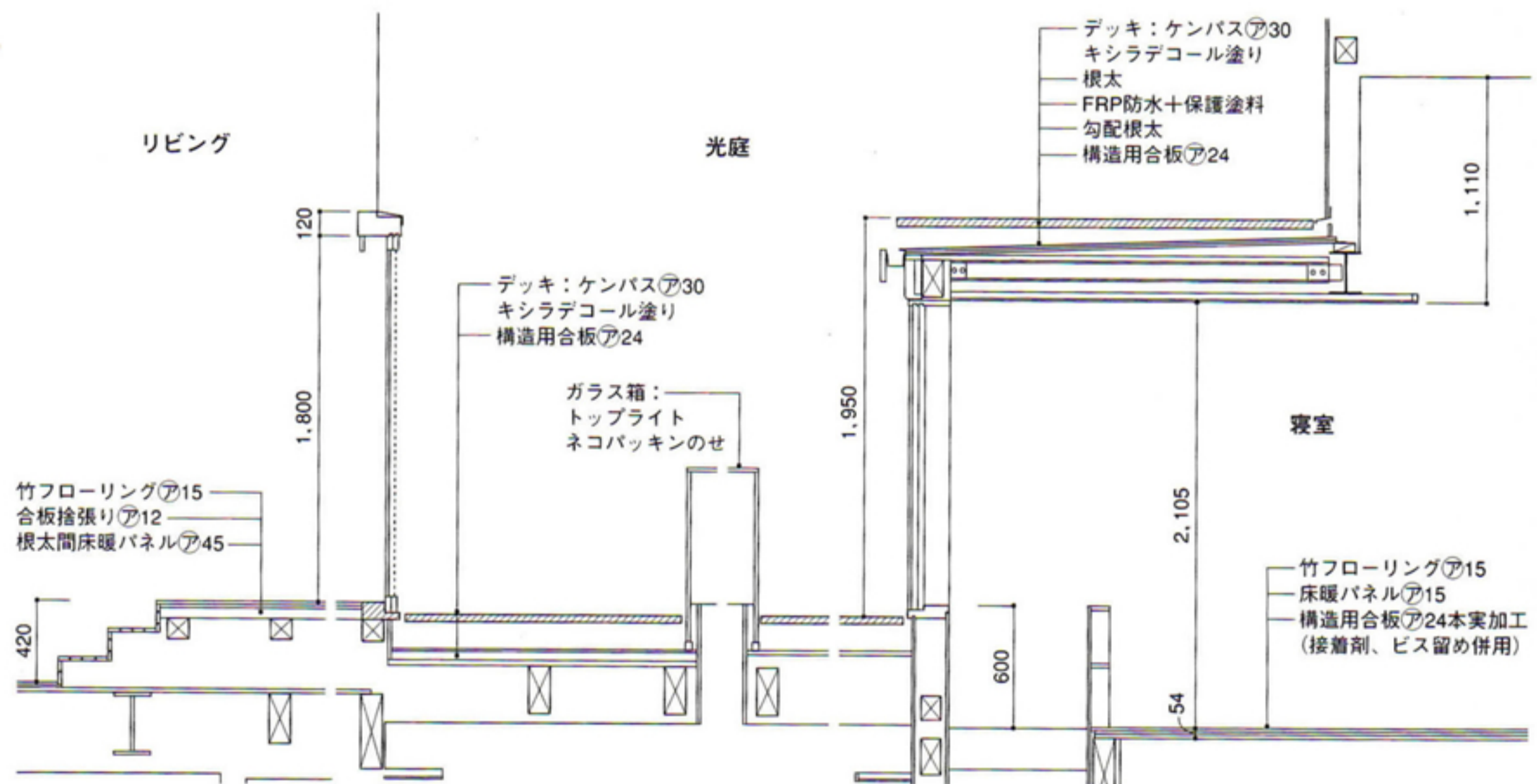


写真3 竹フローリングの木口を生かした共材のベンチ。背もたれ上と座面に木口が見える



写真2 竹フローリングの断面。孟宗竹が三層になっている

図 リビング、光庭、屋上、寝室の床断面(S=1:50)



## 建築概要 筆者のオススメ床材

H邸

竣工：2001年4月  
所在地：埼玉県さいたま市  
設計：鈴木信弘  
施工：頸城建設

竹フローリング・ケンバス枕木

頸城建設 東京都練馬区 TEL03-3904-5452

・竹フローリング

905×95×15mm 4,500円/m<sup>2</sup> 605×95×15mm 3,500円/m<sup>2</sup>

455×95×15mm 2,500円/m<sup>2</sup>

・ケンバス枕木 2,100×200×140mm 85,000円/m<sup>3</sup>